

一人社長の呑み会ネタ 02

「この街じゃ歩けないように…」と本社に電話がかかってきた。

呑み会ネタをシリーズ、

第二弾は、「この街じゃ歩けないように…」と本社に電話がかかってきた話。

■ まず背景をお話しますと…

もう20年以上も前の話ですが、関東近郊のリゾート地で宿泊されるお客様の施設を管理する仕事を担当していました。

（どんな仕事だったかは、どこかでお話しますね）

具体的には、設備・清掃・リネン・アメニティなどを現地の業者さんにお願いして、お客様に心地よく過ごしていただくための一切合切の仕事です。

（ホテル運営をイメージしていただくと分かりやすいかもしれません）

担当しているエリアは、北から「那須高原」「志賀高原」「軽井沢」「千葉勝浦」「中山湖」「河口湖」「箱根」「熱海」「伊豆高原」などでしたが、このうちのある一つのエリアで事件が起きました。

（一応、特定の場所は伏せておきます）

■ ご法度がある

どの業界でもご法度というものがあると思います。

「これは慣習的にしちゃいけない」というものです。

先程書きましたとおりに、ホテル業界では当時とくにご法度というものがありました。

それは…

『業者を変えてはいけない』というもので、

もしそれに振れると、かなり高い確率で嫌がらせを受けることになりました。

■ 値上げ要求されても交渉できない

「業者は変えない」という慣習は、もちろん知っていたのですが、
変えられないということから料金が上がります。

このときの値上げの要求は、今でいうところの

「仕入代金が上がったので…」

「石油が高騰してきたので…」

「企業努力だけではやむを得なく…」

のようなものでなく、無条件に 1.5 倍とか 2 倍とかの見積もりが出てきます。料金が上がるということは、お客様へのサービス料金が上がるということです。

運営サイドとしてこれは避けたいので、当然業者からの値上げ要求に対して交渉します。交渉に対して相手は「業者は変えられない」と思っているので、「じゃあ業者変えたらいいんじゃない？（どうせ変えられないんだから）」という回答が返ってきました。

■ ご法度に振れてしまった私…

その答えを聞いて私はどうしたのか？ 皆さまがご想像のとおりです。
「わかりました。今まで有難うございました。」と電話を切ったわけです。
勢いでいってしまったのではなくて、準備をした上で…

実はこの電話のやり取りの 1 時間前に、近くで別施設を委託している業者（△△さん）に事前に相談をしていました。

私「この後、○○さんと金額の交渉するんですが、たぶんもめると思います。」
「場合によっては、○○さんから変えればいいんじゃないという話が出るかもしれません。」
「そのときは、△△さんにお願いしても大丈夫ですか？」
△△さん「大丈夫ですよ。」

これで、新しくお願いする業者は確保できました。
ここで気になるのは、例のご法度の件です。

私「気になるのは、業者さん変えると嫌がらせに入るじゃないですか。」
「それって、△△さんにご迷惑になりませんか。」
△△さん「大丈夫ですよ。（笑）」

■ それでもコトは起きた

△△さんの心強い言葉をいただいたので、一安心して車を走らせていました。
そこに本社の事務職女性社員（Aさん）から、携帯電話に着信。
運転しながら電話に出ます。（当時は運転中の携帯は OK だったので）

Aさん「今、本社に匿名で電話かかってきたんですけど…」
私「うん、それで？（たぶんあの業者（○○さん）だな）」
Aさん「□□さん（私のこと）に伝えてくれ。▲▲の街、歩けなくなるようにしておいたからだそうです」
(▲▲は、お願いしていた施設があるとある観光地です)

私「あっそう。大丈夫だから。（内心はドキドキ）」

Aさん「気をつけてくださいね」

私「ありがとう。でも、▲▲このあと歩くけど大丈夫だと思うよ。」

■ その後どうなったか？

平然を装って話したものの、内心はドキドキです。

（本当に歩けなくなったらどうしよう…）

そこで、先ほどの△△さんに電話してみます。

私「さっき本社に電話がありまして、たぶん〇〇さんだと思うんですが…」

「▲▲歩けなくしといたからって言われちゃったんですけど…」

△△さん「大丈夫ですよ。私から言っておきますよ。」

それ以降、嫌がらせはピタッと止まりました。

確かに記憶では、その後しばらく経ってから

「また何か機会がありましたら、そのときはよろしくお願ひします。」

のような感じの電話か手紙があったと思います。

匿名で電話してきたので、例のことは一切触れずに。

【作成者】

株式会社 e-Day

BIZIN & BIZIN +

mail : info@bizin.jp